

## No.11 子どもの神経症性障害（講師；今村 明 氏）

### ○概要と不安症群

#### DSM-5 神経発達症群

- ・ 知的能力障害群（知的能力障害、全般的発達遅延など）
- ・ コミュニケーション症群（社会的コミュニケーション症など）
- ・ 自閉スペクトラム症（ASD）
- ・ 注意欠如、多動症(ADHD)
- ・ 限局性学習症(SLD)
- ・ 運動症群（発達性協調運動症など）
- ・ チック症群（トゥレット症など）
- ・ 他の神経発達症群

#### DSM-5 不安症群で子どもに多いもの

- ・ 分離不安症（自閉スペクトラム症の傾向、愛着、トラウマの問題など様々な要素が背景にある）
- ・ 選択性緘黙（生まれつき不安が生じやすい傾向、愛着関係が他者との関係に広がっていきにくい状態が背景にみられることもある）
- ・ 限局性恐怖症（動物、自然環境、注射、負傷、状況など 約75%が複数の恐怖の対象をもつ）
- ・ 社交不安症（子どもの場合は泣く、かんしゃくを起こす、凍りつく、まといつく、縮み上がる、無口になるなどの症状が出る場合がある）
- ・ 全般不安症（自分に自信がなく、過度に同調的だが完璧主義でうまくできない事に極端な不安を覚える）

### ○強迫症および関連症群

#### DSM-5 強迫症および関連症群で子どもに多いもの

- ・ 強迫症（強迫行為は強迫観念からくる苦痛を減弱させるために行われることが多い）
- ・ 醜形恐怖症／身体醜形障害（生まれつき「強迫」が起こりやすい傾向。平均16-17歳で発症。妄想的信念を持つことも多い。統合失調症スペクトラム障害との関連）
- ・ ためこみ症→収集癖（生まれつき「強迫」が起こりやすい傾向。高齢者で気づかれることが多いが11-15歳ころから始まる）
- ・ 抜毛症（乳幼児期に一過性にみられることがある。ほとんどは思春期以降の発症）
- ・ 皮膚むしり症（健康な皮膚だけでなく痂皮もはがすことが多い、他人から隠れて行う）

### ○心的外傷およびストレス因関連障害群

#### DSM-5 心的外傷およびストレス因関連障害群で子どもに多いもの

- ・ 反応性アタッチメント障害（自閉スペクトラム症の診断基準を満たさない、5歳以前に明らかである）
- ・ 脱抑制型対人交流障害（ADHDにみられるような衝動性に限定されない、ADHDとの併存もある）
- ・ 心的外傷後ストレス障害（解離症状を伴う）
- ・ 急性ストレス障害（侵入症状、陰性気分、解離症状、回避症状、覚醒症状）
- ・ 適応障害（ストレス関連性障害は他の精神疾患の基準を満たしていない）

### ○その他の神経症性障害

- ・ 子どもの身体症状症では、反復性の腹痛、頭痛、疲労感、嘔気が多い。
- ・ 子どもの心身症には、起立性調節性障害や過敏性腸症候群が多い。